

新生会第一病院の新しい病院最新情報！

新生会第一病院の新築移転は、順調に進んでいます。開院は2018年5月1日です。建築や設備、引越、運営に関する事を、それぞれのワーキンググループで検討し、新病院建設・移転業務委員会で協議確定しています。

現時点での情報を皆様にお知らせします。今後ともご協力をお願いします。 新生会第一病院看護部長 宮下美子

新病院 院内配置図

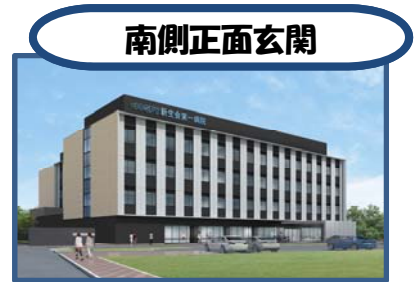
| | | | |
|----|-------------------------------------|------------------|---------------|
| 4F | 療養病棟 48床（在宅復帰強化型） | リハビリ室 | 会議室 |
| 3F | 療養病棟 48床（在宅復帰強化型） | 浄化センター-50床 3A・3B | 教育センター |
| 2F | 一般病棟 48床 （10対1 / 地域包括ケア病床） | 浄化センター-50床 2A・2B | 送迎車 エントランス |
| 1F | 外来、手術室、検査、放射線、栄養、薬剤、地域連携室、医療相談室、事務他 | | |



6月13日時点での工事状況全景



8月26日時点での新病院全景



新病院 完成予想図

南側正面玄関

新病院 新築移転決定事項

| | |
|------------|------------------------|
| 新病院開院日 | 2018年5月1日(火) |
| 患者搬送日 | 2018年4月30日(月) |
| 移転に伴う透析変更日 | 2018年4月30日(月)⇒4月29日(日) |



北側スロープから
2Fエントランスへ

準備のために頑張ってます！

安全な患者移送、物品搬送の段取り、引っ越し期間中の現病院と新病院での業務、病院全体で何とか切り盛りできるよう、努力しています！

[引越WG担当：山田裕香]



患者移送日、開院日が決定し、これから物品移送、患者移送の本格的な準備に入っていきます。安全にかつスムーズに移送が行えるよう準備していきたいと思っております。

[引越WG責任者：恒川礼奈]

DLNの活動

#IOSPY

2017年度看護部DLN資格取得者数

新生会第一病院

10名

東海クリニック
4名

十全クリニック
3名

鳴海クリニック
5名

東海知多クリニック
1名

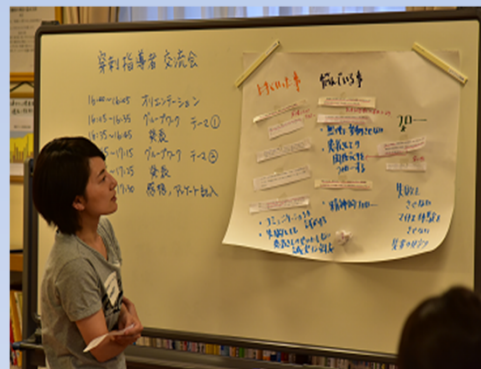
金山クリニック
12名

平針記念クリニック
3名

現在 38名
2017.10

穿刺指導者交流会

2017年5月30日(火)に穿刺指導者交流会を行いました。中堅看護師程度で新人看護師に穿刺指導経験がある人を対象に10名の方が参加されました。



参加者へのアンケート結果から、「穿刺のことを話し合うことはなかなかないので、これからの指導に役立てると思います」他の方の話を聞いて、自分が困っていた事の糸口が見つけた」等の意見がありました。

DLNを初めてとる人への先輩からのアドバイス

DLNを取得することで腎臓領域全般を勉強することができ現場での透析看護にとっても活かされています。自分の中で、今は大きな財産となっています。腎不全看護の分厚いテキスト1冊勉強するのはとても大変ですが、きっと大きな糧となるので是非頑張ってください!!
(金山クリニック 坂口千賀)

DLNを更新する人への先輩からのアドバイス

DLNを更新する際に必要な事例は5事例あり、提出物の多さに心が折れそうになります。毎年事例検討会等、私たちが日々実践していることを文章化できるチャンスはいくらでもあるので、めんどくさいと思わず積極的に文章化してみてください。私はギリギリになって泣きながら頑張るタイプですが、何事も早めに準備しておくのが大事だと実感しています。お互い頑張りましょう。
(東海クリニック 宮田江利子)

鳴海クリニック師長 関川 美知

長期透析患者さんの思い

今年、3名の患者さんが透析歴40周年を迎えられました。今回、患者さん・ご家族にお話を伺う機会をいただきインタビューをしました。お話を伺いながら、40年の道のりはそれぞれ様々であることが分かり、透析導入期のことを昨日のことのようにお話しされる様子に、透析が人生において大きな意味を持って心に刻まれていることを感じました。一看護師として、心が温まるような感覚と同時に身が引き締まるような感覚を覚えました。

血液浄化センター 前田あすか

徐々に変化する身体を夫が支えてくれました

Q1.透析がどういうものなのか全く知らなかった。初めて透析室を見学した時、独特の血液の臭いが嫌で一度導入を拒否した。毎回のようダウンしていたことを覚えている。体重管理について厳しく指導された、一日空気で体重増加は0.5kg以内。40年間ずっと続けている。

Q2.夫婦でお寺巡りをしたり、色々なところに旅行に行ったりしたことが、気分転換になった。透析を義務と思うとどうしても気持ちが内向きになってしまうから、楽しむようにしている。

Q3.生活環境がどう変わるか不安だったが、妻(患者)が透析に向き合い努力してくれたから自分も頑張ることができた。妻が(合併症で)家事ができなくなってきた時、料理教室に通って勉強したり楽しんでやってきた。できることは分担してやっている。

Q4.思いやり、忍耐、努力だと思います。本人も大変だけれど家族も大変です。透析に関する福祉のサポートがなければ治療を受けられないのです。感謝しても仕切れないという思いをいつも持っています。

Q5.一生懸命やってくれて感謝しています。自信を持ってやってもらいたいと思うと同時に挨拶や笑顔など良い雰囲気を作ろうという思いをみなさんに大切にしていきたいです。

Q1.透析導入した時のことを教えてください。

Q2.40年間頑張ってくることができた秘訣は何ですか。

Q3.家族の思いを教えてください。

Q4.今、導入期の患者さんへ伝えたいことを教えてください。

Q5.看護師に対しての思いを教えてください。



我慢していたことも習慣となりました

Q1.ずっとかかっていた内科でもう導入するしかないと言われて、透析導入となった。初めての透析で一升瓶2本分の水引きをした。内シャントを作るのに7時間もかかった。ダイアライザーがなかなか合わず何回も交換した。徐々に透析に慣れて落ち着いた。

Q2.食べ物に関しては厳しくやってきたよ、自分の身体だからという思い。大変だったけれど、こうやってきたから生きてこられた。先輩の患者さんから水引き(ECUM)をすることは恥ずかしいことと言われてたり色々なことを教わった。

Q3.妻(患者)は何事にも厳しい。料理屋さんをやりたいという思いがあったが病気になってできなくなった。65歳で仕事を辞めるまで好きなことをさせてもらったからね、料理は秤とにらめっこしてやってるよ。

Q4.患者同士でもっと話すことで色々な情報や思いを共有できるのではないのでしょうか。どんなことも自分の身体で覚えるしかないの、自分の身体は自分で管理しなきゃ、人任せではダメ。でも本当に食べ物に関しての我慢は辛いと思いますが、気付いたら当たり前のことになります。

Q5.体重増加が多いことが身体にどんな影響を及ぼすのかわかってない患者も多いです。体重増加量が多いことを単に注意するのではなく、どうなるかという理由を説明してほしいです。

私たち家族には家庭透析が合っていました

Q1.元々、ネフローゼにて通院、徐々に腎機能低下してきた。ある日風邪を引き、起き上がれなく、呂律が回らなくなり、新生会第一病院の広告を覚えていて受診すぐ入院となった。調子が悪いただけと思っていたから透析導入と言われて戸惑った。家庭透析のこと聞き、夫も勧めてくれたから家庭透析と決めた。当時は施設透析の方も自己穿刺していたから、ベッドが近くの顔なじみの人たちと一緒にがんばったよ。1ヶ月間くらいの訓練だった。

Q2.秘訣なんてそんな好き勝手してきたからあんまり参考になることがあるか分からないけれど。私の場合は家庭透析を選んで、時間を自由に使えることが一番大きかったかな。自営業の仕事も続けられたし、家族と一緒に居られた。

Q3.母と妹には仕事の手伝いをしてもらって感謝。透析中夫を拘束して申し訳ないからそれ以外の時間は自由にとっている。(患者の家族に対する思い)

Q4.透析自体は大変だけれど、それをしなければ死んでしまう。がんばってほしい。早目に対処することで楽になることがあります。

Q5.自分のことをよくわかっていてくれて本当に感謝しています。

